

子どもに やさしい学校

※PJ=プロジェクト

先月号は12月に開催された「子どもにやさしいまちづくりPJシンポジウム」につながる内容でしたので、今月はまた学校の取り組みや様子に戻ります。

先駆的な追分中学校

CFCC「子どもにやさしいまち」の定義を安平町では「子どもがあたり前に意見できるまち」としています。この視点の取り組みを先駆的に取り組んでいるのが追分中学校です。

2021年、追分中学校では制服の見直しを行いました。一般的な制服の見直しの流れは、業者が提案したものを学校とPTA（保護者）が決めるといったものでした。しかし、追分中学校では、この制服を

決めるプロセスに子どもの意見を取り入れました。生徒にアンケートを取り、そこで出された意見を反映させ、追分らしいのあるワッペンやボタンを取り入れたブレザータイプの新しい制服に切り替わりました。

CFCCについて理解が深まってきている方は「それって普通のことじゃないの?」と思うかもしれませんが、まだまだ一般的な学校では、当事者である児童生徒の声が学校の仕組みにまで反映されることは多くありません。「子どもを一人の人として尊重する姿勢」そして、それを支える学校と保護者の関係がなければCFCCの実践は進みません。こうした「子どもを一人の人として尊重する姿勢」は制服の見直しだけでなく、授業の中でも広がっています。

子どもの意見が、まちをつくる

今年7月、追分中学校の体育館で町政策推進課の担当者が生徒の発表を聞き入る姿がありました。追分中学校の3年生が総合的な学習「まちづくり学習」としてまちづくりの施策提案を行ったのです。事前に町の特徴などを町職員から話を聞いて学び、調査や分析に取り組み、左記のような提言をまとめました。

- 新たな公共サービスとしてハイヤーとデマンドバスを掛け合わせた「ハイブリットタクシー」の導入
- 追分地区の魅力を伝えるツアーと魅力の詰まったBige祭りの実施
- 安平町のふるさと納税人氣商品にターゲットを伸ばしたコラボレーション特産品の開発
- 平時は公園に使い、災害時は避難所として使用できる「防災公園」の設置

自分たちの考えで行事もつくる

「子どもが当たり前に意見できる」ということは、自分たちのことは自分たちで考えるということですね。追分中学校では生徒会が中心となって「異学年交流」という時間をつくっています。その時間は何をするかは自分たちで決めます。また、自分たちの意見で行事もつくってしまいました。3学期に球技大会をするそうです。年度当初には無かった行事です。内容は全校生徒にアンケートを取り、そこから考えます。

学校生活の当事者は生徒自身です。先生が一から十まですべて決めるのではなく、子ども自身が考えて学校生活をつくる。学校生活を楽しくくりあげる。そのために必要なのは大人が子どもの意見を聞く機会をしっかり持つこと。それと子どもを一人の人として尊重すること。CFCCの考えが学校の中に広がっています。